第179号　令和7年3月19日発行

# 総合型地域スポーツクラブ
# 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツくじについてはこちらから
[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]
https://www.toto-growing.com/

## 特集★スポーツ少年団と連携しているクラブ

### しわひめスポーツクラブ（宮城県）

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM179_shiwahime.PDF

## 特集★公共施設を活用しているクラブ

### 川島町総合型地域スポーツクラブ（埼玉県）

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM179_kawa.PDF

## 連載★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むクラブ

### 一般社団法人星槎（せいさ）湘南大磯総合型スポーツクラブ（神奈川県）

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R6/MM179_seisa.PDF

## 助成金情報 ▷▷▷ 詳細

## お知らせ ▷▷▷ 詳細

## バックナンバー ▷▷▷ 詳細

## 全体版 ▷▷▷ 詳細

JSPO
Japan Sport Association

# 特集

## ★スポーツ少年団と連携しているクラブ★

# しわひめスポーツクラブ

## 宮城県栗原市

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツ団体等との相互扶助の関係を築き、地域社会からの信頼性を確保し、地域に根ざす団体となる必要があります。そこで今回は、スポーツ少年団と連携・協働し、地域におけるスポーツ推進体制を高めているクラブを紹介します。

## 1　クラブ概要

### 宮城県内９番目の総合型クラブとして誕生<br>小学生からファミリー層まで幅広い年代が活動中

しわひめスポーツクラブのある宮城県栗原市志波姫地区は、町の3分の2が水田に囲まれた農村地帯。行政施設を中心とした1㎞圏内に、保育所、幼稚園、小学校1校、中学校1校があり、人口6,500人ほどの地域で、地区の中央を南北に東北新幹線が走り、東北新幹線「くりこま高原駅」があります。

そのような環境のなか、平成16（2004）年3月に、志波姫町体育協会、スポーツ少年団、中学校運動部活動、スポーツ愛好団体が母体となり宮城県内9番目の総合型クラブとして設立しました。

会員は、スポーツ少年団8団体、中学校運動部活動6団体、一般12団体、ファミリー2家族、個人53名で、ほとんどが団体会員で構成されており、中学生以下229名、高校生以上263名の合計492名です。

スタッフは、会長1名、副会長3名、監事2名、運営委員12名、クラブマネジャー1名で構成されており、スポーツセミナー17種目、スポーツ教室18種目、各種イベントや大会、スポーツ講習会などの活動プログラムを開催しています。

また活動拠点としては、志波姫小学校体育施設（体育館、校庭）、志波姫中学校体育施設（体育館、武道館、校庭、テニスコート）、当クラブが指定管理を行っている志波姫公民館（アリーナ、会議室）を使用しています。

毎年、指導者・保護者を対象に開催する「スポーツ講習会」

多世代にわたり、志波姫地区外からも多く参加している「卓球教室」

## 2 スポーツ少年団活動＝クラブ活動（イコール）<br>クラブ登録団体の活動を支援

クラブ設立時の話し合いのなかで、スポーツ少年団および中学校部活動も一緒に取り込んで活動していくとしたことにより、設立時から8単位団（現在は10単位団）がしわひめスポーツクラブに加入しています（志波姫町スポーツ少年団本部は平成17（2005）年の市町村合併と同時に解散したため、現在は栗原市スポーツ少年団本部に、この10単位団がそれぞれ登録中）。

クラブ事業のスポーツ教室は、加入している団体が主催することとしており、各スポーツ少年団単位団も主催者となり活動しています。また、市から委託されているスポーツセミナーの講師も各単位団等の指導者にお願いしています。

クラブに加入しているスポーツ少年団の運営は各単位団で行っておりクラブと別になっていますが、スポーツ少年団活動＝クラブの活動（イコール）として位置づけており、スポーツ少年団単位団を含むクラブ登録団体には、毎年、活動に使用するスポーツ用品の支給、クラブ所有のワゴン車無料貸出、活動場所の借用申請や会場使用料の助成および保険加入手続きの代行などの支援を行っています。窓口を訪れたスポーツ少年団の保護者や指導者から「負担を軽減することができ助かっている」と、うれしい言葉をいただいております。

また、しわひめスポーツクラブ全会員の交流イベントの開催やスポーツ少年団加入者の小学生のみを対象として開講式、閉講式を開催しています。開講式では団員の紹介や誓いの言葉を述べ、閉講式では団員全員への修了証の授与、小学6年生団員へメダルの贈呈、代表者の感謝の言葉を伝えています。なお、閉講式には中学校の校長に出席を求め、中学校への引き継ぎをしています。

＜スポーツ少年団開講式＞
活動する全種目の団員・指導者が集まり、１年間の活動の誓いをします

＜スポーツ少年団閉講式＞
6年生団員にはライオンズクラブより種目ごとのメダルが授与されます

### 部活動の地域移行の受け皿として<br>子どもたちが長く活動できる環境をつくる

しわひめスポーツクラブは、スポーツ少年団の活動をクラブのスポーツ教室に位置づけており、そのなかには、団員の小学生だけでなく中学生、高校生も対象とした教室もあります。そのため、継続して活動を続ける中学生、高校生も数多くスポーツ少年団に加入しております。

また、市内でスポーツ少年団および中学校運動部活動を取り込んでいるクラブは当地区のみのため、栗原市内の他地区からスポーツ少年団に加入している児童・生徒も多く、少子化の中でも、

各団体が活発に活動できています。さらに、志波姫中学校と休日の運動部活動地域移行の協定を締結し、中学校運動部活動にクラブの指導者を派遣しています。

参考:学校運動部活動と連携するクラブ しわひめスポーツクラブ(第153号 令和2年11月20日発行)

## 3 会員間の交流だけでなく、会員以外も参加できるイベントで地域の活性化につなげる

さらに、小学生、中学生、高校生と大人が一緒に活動している種目や、会員、保護者、指導者が参加する交流イベントの開催など、多種目多世代で交流ができており、スポーツ少年団と総合型クラブが連携することで地域の活性化にもつながっていると思います。

交流イベントは、非会員の方々にも参加していただき、当クラブへの理解促進とスポーツの楽しさを知る機会を提供する「カリヨンフェスティバル」や、いも煮会、プロ野球観戦など、誰もが気軽に参加できるスポーツ・レクリエーションを通じて、参加者同士の親睦と交流を深めることを目的に開催しています。

この会員以外も参加できる交流イベント「カリヨンフェスティバル」は、今年21回目を開催いたしました。遊び感覚で体を動かす楽しさを味わえる「チャレンジ・ザ・ゲーム」や、身近にあるものを使ってさまざまな遊びの記録に挑戦する「チャレンジ・ランキング」で、仲間と楽しく交流しながら記録に挑戦。複数の種目を同時進行し、お祭りの屋台のように種目コーナーを設け、参加者は各種目コーナーを自由に回り、挑戦した種目の記録がポイントとなります。上位入賞者には記念品を贈呈。さらには、自転車が当たるお楽しみ抽選会や焼き鳥やフランクフルトなどを提供しています。

会員以外の方が半数を超えるほど参加していただき、準備していた物を急きょ追加するなどうれしい悲鳴を上げました。参加者からは、「とても楽しかった。また、来年絶対参加します」などの声が聞かれました。

＜会員交流イベント＞
未就学児から高齢者まで、いろいろなゲームにチャレンジし交流しています

小学生から一般まで交流試合などを行う「新春バレーボール祭」

# 4 クラブの今後の展望

## 子どもたちだけでなく幅広い世代が安心してスポーツに取り組める環境づくりをめざして

今後、スポーツ少年団活動だけでなく中学校部活動の地域移行が進むにつれ、受け皿として総合型クラブの役割は重要になってくると思います。

現在、志波姫中学校だけでなく他地区からの生徒も受け入れて地域クラブとして活動しています。他地区の取り組みが進んでいないことから、受け皿として積極的に生徒の受け入れを実施していくこととしております。

少子化も進み、会員の減少も予想されることから、志波姫地区だけでなく、他地区からの加入促進、また、会員数が少ない青年層の加入促進に努めてまいりたいと考えています。

そのためにも、栗原市教育委員会やNPO法人栗原市スポーツ協会と連携し、施設・設備の充実や指導者の研修による資質向上を図るなど、子どもたちやスポーツ愛好者が安心して親しめる環境を整えていくことが重要であります。

また、現在活動拠点となっている志波姫公民館の指定管理を継続し、安定した財源確保を図り充実した事業を展開していけるよう努めていきたいと思います。

しわひめスポーツクラブ　クラブマネジャー　佐藤知香

## クラブプロフィール

| | |
|---|---|
| 設立年月日 | 平成16(2004)年3月21日 |
| 所在地 | 宮城県栗原市志波姫沼崎南沖447 栗原市志波姫公民館内 |
| 運営 | 会員数:492名(令和7年1月現在)、予算規模:16,000,000円(令和6年度) |
| 特徴 | しわひめスポーツクラブは、設立当初から既存団体である、スポーツ少年団、中学校運動部活動、旧志波姫町体育協会、スポーツ愛好会が総合型に理解を示しクラブに加入しています。既存団体の活動を各種スポーツ教室として位置づけているのが特徴です。 |
| 連絡先 | 〒989-5615　住所:宮城県栗原市志波姫沼崎南沖447　栗原市志波姫公民館内<br>TEL:0228-25-3231　FAX:0228-25-3236<br>E-mail:shiwahime-sportsclub@seagreen.ocn.ne.jp |

# 特集

## ★公共施設を活用しているクラブ★

# 川島町総合型地域スポーツクラブ

## 埼玉県比企郡川島町

総合型クラブが日常的な活動拠点として、地域における身近な施設である学校施設・公共スポーツ施設・公民館等の社会教育施設を確保することは、クラブの安定的な活動・運営につながります。

そこで今回は、学校施設・公共施設を活用し、地方公共団体等と連携するクラブを紹介します。

## 1　クラブ概要

### 5年で達成した会員数220、実施教室数13

当クラブは令和2(2020)年4月に設立しました。ところが、入念な準備を行い、順風満帆に進む予定であった設立元年は、新型コロナウイルス感染症の影響をもろに受けることになります。希望に満ち溢(あふ)れた船出は予想もしない舵(かじ)取りを迫られることになりました。「会員は集まるのか？」「公共施設は使えるのか？」「いや、社会はどうなるのか？」……等々。多くの不安とともに動き始めた設立元年でした。

しかし、設立5年を経過した現在、行政との連携を含めた地域の協力、スタッフ、関係者の努力は、クラブの会員数220名前後、実施教室数13教室という数字に結びつけられました。当クラブのコンセプトの一つである「多世代多種目多志向」を、まさに現実のものとした成果になっています。

**実施教室**

①ヨガ
②ジュニアヒップホップダンス
③ヒップホップダンスアドバンス
④モダンダンス
⑤モダンダンスマヴィー
⑥卓球
⑦卓球アドバンス
⑧バドミントン
⑨将棋
⑩骨盤ストレッチ
⑪ピラティス
⑫ソフトテニス
⑬ワクワクスポーツ(障がい者)

設立年度から実施している小学生を
対象とした「モダンダンス」

小中学生を対象とした「将棋」は
今いちばん大盛況のクラス

障がい者「ワクワクスポーツ」フロアカーリング
実施の様子

## 2 公共施設を十分に活用したクラブ運営

### 川島町民体育館内にある事務局はクラブ員の憩いの場

当クラブは設立以前のプレ事業段階から川島町と連携を図り、令和2(2020)年のクラブ設立を実現しました。設立後も公共施設(川島町民体育館をメイン会場に、中山公民館、ふれあいセンターフラットピア川島など数カ所で教室を実施)を優先的に活用できるように協力いただいています。

コロナ禍でも順調に会員増を果たしてきたクラブ運営の基盤となっているのは、川島町民体育館の一室を借用し、事務局(拠点)としたことだと私たちは考えています。事務局は今やクラブ会員の憩いの場としても活用され、会員なら誰もが気軽に立ち寄れる環境が出来上がっています。事務局の存在は、行政と当クラブがお互いに歩み寄り、力を合わせて動かしてきた総合型クラブであることの証しで、当クラブの舵を取っていくうえでいちばんのメリットになっています。

### 利便性のよさと広い駐車場で通いやすい環境を実現

川島町民体育館というベースを確保できたおかげで、クラブ設立以来、事業は計画どおりに推移してきました。川島町役場に隣接する川島町民体育館は、当然のごとく車での移動がしやすい場所にあり、専用駐車場の利用も含めて、クラブ会員はじめ町内在住の方々へのもう一つのメリットになっています。

例えば、スポーツ教室のなかには、設立当初から活動しているダンス・クラスがあります。今では総勢90人を超える大所帯となり、小学校低学年クラス・高学年クラス、また中高生クラスと分かれて実施しています。多人数が一堂に会するクラスではありますが、公共施設に備わっている広大な駐車場のおかげで、駐車場確保の問題は発生せず、事業の運営を円滑に進められています。

駐車場の利用に関しては、ヨガや卓球、ソフトテニス、将棋など多人数のクラスの開催においても、ダンス･クラスと同様に混雑の問題は一度も起こらず、会員の皆さんには安心して通っていただいています。

また、近年では町外のクラブ会員も増えてきており、広々とした駐車場がある川島町民体育館は利便性のうえでも、通いやすいクラブと言えます。町内在住の方なら遠くても20分程度で通える距離にクラブが位置することは、継続性のある事業を運営するうえでも有益であると、5年間の実績で強く感じているところです。

### 課題は車などで通うことが難しい方へのインフラ整備

とはいえ、今後のいちばんの課題は、車などで通うことが難しい方へのインフラ整備です。特に町外在住の方からの問い合わせで多いのが、公共バスでの移動や車の運転ができない方の移動手段です。当クラブは町内在住の方だけでなく、町外の方も対象として事業を行っています。しかし、町外の方のなかには活動場所まで通えない人もいるのは心苦しいところです。送迎バスの運行など対策も考えられますが、事務局の人数不足もあり、対応できずにいることが課題となっています。

## 3 クラブの今後の展望

### 目標だったNPO法人化を昨年12月に達成

当クラブは昨年12月に法人化しました。NPO法人にすることを目標に活動してきただけに、法人化は行政サイドも事務局サイドも大きな喜びとなりました。6年目となる令和7(2025)年度からも今まで同様、一人でも多くの方に利用していただけるように、継続して事業を行っていく体制を構築していきたいと考えています。

### 障がい者や高齢者用教室のプラン第１弾「リアル野球盤」

今後の予定としては、障がい者スポーツ教室の種目増加や、高齢化社会の活性化に寄与するための気軽にできるスポーツの展開を視野に置いています。高齢者を対象に、事務局と講師が公共の場に訪問してスポーツ指導するシステムも検討中です。当クラブまで足を運ぶことが難しい障がい者や高齢者の皆さんのために、こちらから足を運ぶスタンスを構築できればと考えています。

障がい者や高齢者用教室のプラン第１弾として、3月から「リアル野球盤」というニュースポーツの体験会を実施します。社会福祉法人と連携しながら、本場の野球を小さくしたような野球を体験できる、年齢問わず楽しめるスポーツです。障がい者や高齢者の皆さんに、少しでも身体を動かすきっかけをつくり、身体を動かす習慣に結びついてもらえたらと考えています。

既存のスポーツ教室の展開、ニュースポーツの展開、そして地域が必要としていることなど、「多世代多種目多志向」の方々がさらに参加いただけるクラブになることを今後の目標とお伝えし、筆を置きたいと思います。

川島町総合型地域スポーツクラブ　クラブマネジャー　花嶋真次

３月開催の「リアル野球盤」ニュースポーツの案内チラシ

4回目となるダンスイベント「ビートアイランド」は今年も大盛況となるはず?

## クラブプロフィール

**設立年**　令和2(2020)年4月1日(令和6年12月4日 法人登記)

**所在地**　埼玉県比企郡川島町下八ツ林923　町民体育館内事務所

**運営**　会員数：220名(令和6年2月現在)　予算規模：13,000千円(令和6年度)

**特徴**
- 行政と連携をとりながら運営しているクラブです。
- 「多世代多種目多志向」。追加をすれば、町外からも参加OKです。また、令和6年12月に法人化し、着実に前進している県内でも今最も熱いクラブとして運営しています。引き続き多くの方にご利用していただけるよう日々努力していきたいと思います。

**連絡先**　〒350-0122住所：埼玉県比企郡川島町下八ツ林923　町民体育館内事務所
TEL：090-6311-9637
HP：kawajimasc.amebaownd.com
E-mail：kawajima.enl@gmail.com

**★本記事の読み上げ動画を作成しました！**
忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご活用ください！
動画はこちら➡https://youtu.be/jTsuVbmw-iw

過去の動画はこちら

# 連載

## ★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むクラブ★

# 一般社団法人星槎（せいさ）湘南大磯総合型スポーツクラブ

## 神奈川県中郡大磯町

学校運動部活動を巡っては、少子化による生徒数の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5（2023）年から令和7（2025）年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

## 1　クラブ概要

（一社）星槎湘南大磯総合型スポーツクラブは、地域の方々の健康増進と青少年の健全な育成に寄与することを目的に、星槎グループの学校施設を活動拠点とする総合型クラブとして、平成24（2012）年に女子サッカー、グラウンドゴルフ、太極拳の競技や、ビーチバレー教室の開催などから活動をスタートしました。そのきっかけとなったのが、平成13（2001）年から活動していたOSAサッカークラブの存在でした。設立時にはドイツ1部リーグで初めての日本人プロ選手として活躍した奥寺康彦氏、テクニカルアドバイザーには元西ドイツ代表のP.リトバルスキー氏が就任し、クラブの運営を支援してくれました。現在は、さまざまなスポーツの普及に力を入れながら、地域貢献活動や社会貢献活動を積極的に行い、まさしく地域に密着した愛されるクラブをめざして活動を続けています。ちなみに、当クラブ所属のSEISA OSAレイア湘南FCは、令和6（2024）年度よりなでしこリーグ（日本女子サッカーリーグ2部）に所属して活躍しています。

活動内容としては、子どもの健全育成を図る活動をはじめ、文化・芸術・スポーツの振興、地域に貢献できるボランティア活動、障がい者の文化・芸術・スポーツの振興に関わる活動、地域の幼稚園・保育園・小学校・中学校を対象に教育連携事業のほか、令和6（2024）年度より大磯町からの業務委託を請け負い「大磯式部活動地域移行」を実施しています。

現在の活動種目はアーチェリー・サッカー・陸上競技・太極拳・ビーチバレー・グラウンドゴルフ等で、会員数169名（令和6年4月時点）の総合型クラブを、クラブ長ら5名体制で運営しています。その他、公認アシスタントマネジャー有資格者１名もいます。

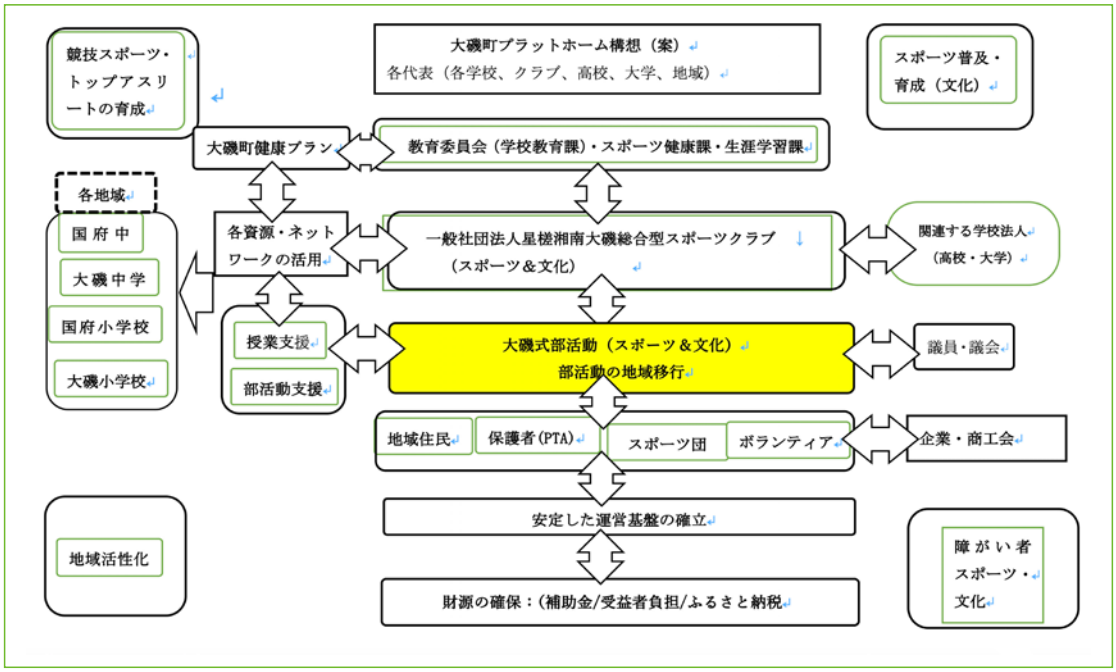
## 2　連携事業として大磯式部活動を継続実施

当クラブは、学校法人(学校法人国際学園)が関わった総合型クラブです。当クラブはこれまで長年学校部活動との連携に向けて取り組んできました。しかし、活動を始めた当初は学校と行政との連携が不十分であり、なかなか進まない現状や教員の専門性や働き方改革の課題がありました。それらを踏まえて、総合型クラブと地域の小・中学校が協働した体育の授業支援、部活動支援が日本のスポーツのあり方や方向性の大きな指針となると考えました。そこで、令和3(2021)年度より当クラブ(関係する学校法人国際学園湘南学習センター含む)が中心となって、大磯町との連携事業として小学校2校、中学校2校と教育連携事業(大磯式部活動)をスタートさせました。現在まで4年間継続して実施しており、各学校における授業をサポートするための指導員(クラブの指導者・選手、学習センターの教員・生徒)派遣、スポーツ体験のイベント事業等を行っています。

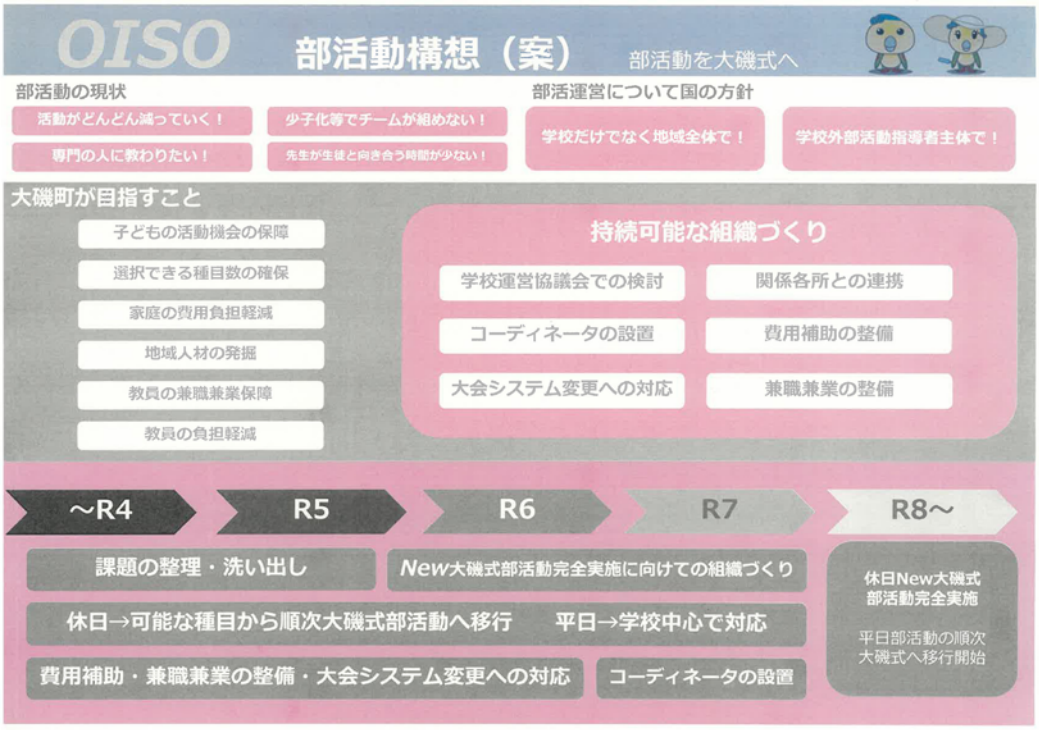
将来的に当クラブが作成した大磯町プラットホーム構想(図1)によるグランドデザインを実現するために、これまで各学校長、大磯町のスポーツ健康課、教育委員会の協力のもと連携事業を行ってきました。そして、大磯町と関係性を構築しながら教育連携事業を推進してきたなかで、令和5(2023)年6月に大磯町教育委員会より、部活動地域移行について「大磯式部活動」の提案があり、大磯式部活動構想(図2)のもと大磯町のスポーツ団体への協力依頼がありました。当クラブではそのときすでに中学校の授業や部活動のサポートをして関係性を築いていたため、令和6(2024)年度より部活動地域移行に関する事業を受託することになりました。

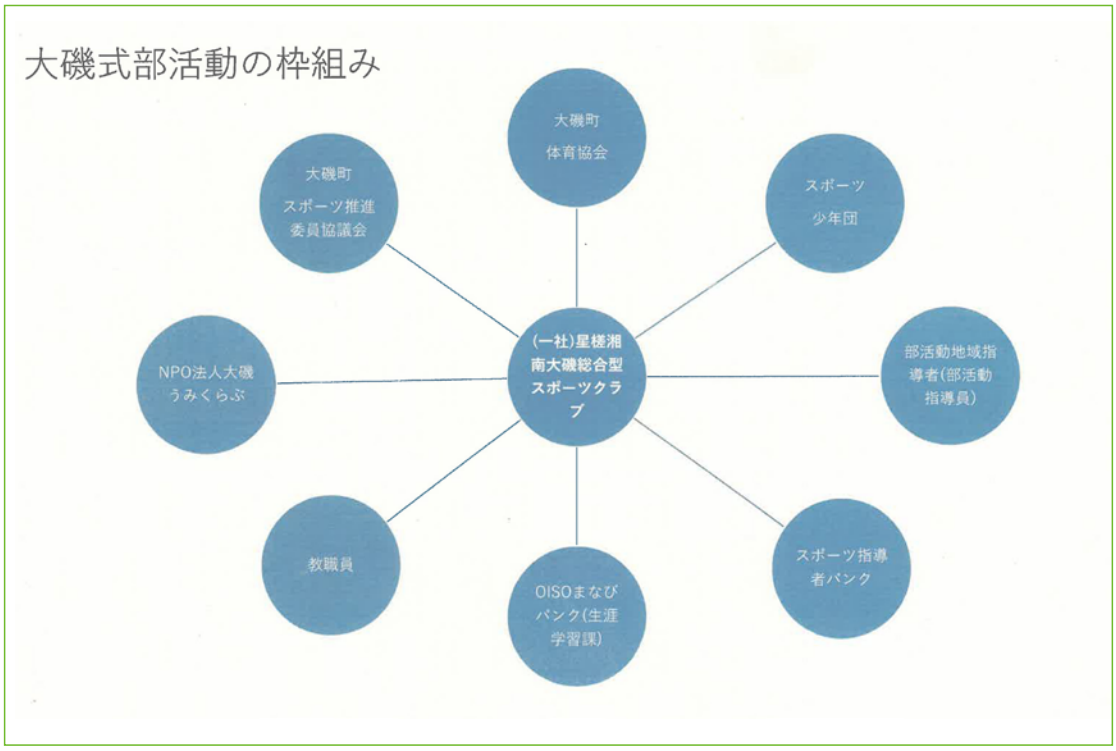
また、大磯町としては国の実証事業として令和5(2023)年度よりソフトテニス大磯クラブの活動を実施していたことで、部活動の地域移行の方針が明確になっていました。

**図1　大磯町プラットホーム構想(案)**



## 図2　大磯式部活動構想(案)



## 事業が拡大しても持続可能な取り組みを行うための課題

スポーツ庁の当初の計画は、令和8(2026)年に平日の部活動を地域移行するもので、大磯式部活動も順次移行する計画でした。令和6(2024)年度からのスタートにあたり、大磯町が全面的に予算を確保して大磯式部活動を実施することが決まり、前述のとおり当クラブが町と業務委託契約を交わし運営業務を行うこととなりました。事業受託に関しては、大磯町のスポーツに関わる団体(スポーツ少年団、スポーツクラブ、スポーツ教室、大磯町のスポーツ協会等)が一堂に会し、大磯式部活動の地域移行の説明を受け、日頃から町のスポーツ事業に協力していた状況や法人格を持つ当クラブが事業受託のクラブとして選出されました。そして、令和6(2024)年度は土日祝日のみを大磯式部活動として、当クラブに登録した指導員を部活動に派遣しています。また、保護者からの費用を徴収せず、町としての大磯式部活動に取り組む姿勢とその熱意を実感しました。

指導員は部活動指導員として、各学校の教職員の希望者(内部指導員・部活動顧問)を当クラブに登録してもらうほか、町の広報紙で希望者を募集し、当クラブが応募者と面接を行い、合格した方のみ学校管理職と確認して指導員登録をしています。

具体的な部活動数は、運動系:A校11部、B校11部／文化系:A校5部、B校5部(男/女部活動は1つずつカウント)で、学校の規模としては、A校18クラス(334人)、B校24クラス(421人)です。

財源は、9,118,850円(令和6年度)で、内訳は指導員報酬・保険料・事務手数料。指導員の報酬については1時間2,000円(1日3時間まで)を謝金として支払い、活動場所は各学校、試合会場、外部練習場を使用しています。しかし、今後事業が拡大しても持続可能な取り組みにできるか、予算の確保が大きな課題となっています。

## 一定数の指導者の確保と謝金について

指導員への謝金について当初は、指導者の有資格や経験によりランクづけを行い報酬額の設定をする考えもありましたが、一定数の指導者を確保することが優先され、現在は一律の報酬となりました。町として、教員には特勤対応(特殊勤務)と併用することでより指導時間の確保と指導者の確保をしました。また、町独自で平日の部活動地域指導員に対しては1回1,000円の報酬を支払い、平日の部活動の活動を支援しています。

当クラブに登録している指導者は内部指導員(教職員)と外部指導員に分かれています。内部指導員(A校16人、B校14人)は、教職員のなかで土日祝日も部活動に関わりたいと考えている方が指導員としてもクラブに登録しており、試合への単独引率が可能です。しかし、外部指導員の場合、各学校の管理職を通して連絡を取っており学校に負担をかけているため、各学校と当クラブとの情報共有の方法がまだ十分ではない課題があります。外部指導員(A校8人、B校5人)に関しては、登録者数が十分ではなく、単独で引率ができる指導力のある指導員の確保が課題であり、指導員の高年齢化や一部の指導員との連絡が取れず情報共有に苦慮しています。

予算・収入の獲得については、今のところ、町の方針として受益者負担は望まない方針で、今後スポンサーの獲得、ふるさと納税の活用、クラウドファンディングの活用、将来的に受益者負担の検討が必要です。

## 3　取り組みにおいてある一定の効果と今後の課題

取り組みの効果について生徒の満足度調査等はまだ行われていませんが、ある程度評価されていると手応えを感じています。今後、教育委員会が主体となって、生徒・保護者へのアンケートを実施する予定です。また、取り組みを始めたことで、生徒の部活動時間の保証と教職員の働き方改革の一助となっていると思います。

その一方で問題点も出てきています。部活動の地域移行や大磯式部活動についての教員・生徒・保護者・地域住民の認知度がまだ不十分と思われます。その理由として、大磯式部活動の対応は土日祝日のみの対応であること。特に内部指導員（教職員）が学校部活動の顧問としても携わっているため、生徒・保護者に大磯式部活動の趣旨が十分に伝わっていないと言えます。生徒にとって内部指導員はあくまでも部活動の顧問であり、活動の変化がないからです。また、大磯町が実施している地域指導者（外部指導員）も部活動指導員として登録・活動している方が多いため、その変化がわかりません。

そして、指導員の資質の確保・向上についてもまだまだ課題があると思われます。内部指導員（教職員）については、顧問としての自覚はあるものの、個人差があるため、指導力を高めて日頃の活動に生かす意識が必要ではないかと思います。また、各学校の管理職が内部指導員の事務的手続きに関与しているので、今後はデジタル化（共有ドライブ）の活用などで指導員と当クラブが直接交渉できるシステムを構築する必要があります。

一方、外部指導員のなかには日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格を取得した方もいますが、なかには経験や実績だけで部活動を指導している方もいるため、今後は当クラブとしても指導者資格の義務づけなどを含めて、部活動指導員の資質の確保・向上に向けて研修制度の確立を図り、指導力のある外部指導員の確保、また、内部指導員の指導力の向上などが課題です。そして、土日祝日などに関しては生徒にとって質の高い活動の確保と満足度を与えることが必要です。そのため、今後はそれらの課題をいかに克服すればよいかの仕組みが求められています。

### 指導の現場や周辺から聞こえてきた皆さんの声

大磯式部活動を実施したことで、部活動の現場では生徒・保護者・指導員・事務局からは次のような声を聞くことができました。

**[生徒のコメント]**地域指導員（男女卓球部のメイン顧問）の方が来てくれることで、ふだんはできない卓球の練習を行うことができるのでうれしいです。その他にも、試合のときに技術的なアドバイスをもらうことができるので、視野が広がり相手よりも優位に立つことができるのかなと思います。

**[保護者のコメント]**部活を通して掛けがえのない仲間ができている姿を見られることほど、親にとってうれしいことはありません。大磯町の部活動の考え方に感謝の気持ちでいっぱいです。

**[外部指導員のコメント]**保護者の方や先生方、同級生など“誰からも応援されるチーム”になれるよう心掛けています。これからもあいさつや日々の授業など、ふだんの行いにも気をつけていきたいと思います。

**[教職員のコメント]**教材研究の時間もじっくり取れるようになり、より丁寧な授業づくりにつながっています。

**[事務局のコメント]**大磯式部活動の取り組みについて、町がビジョンを持ち、大磯町の教育委員会が予算を確保した実績が大変大きいと思います。教育部長をはじめ指導主事などの関係者の大磯式部活動に対する積極的な姿勢・取り組みがここまでの実績につながっていると思います。業務委託をしている当クラブとしては、大磯式部活動をより質の高い充実した大磯式部活動へ展開していきたいという強い信念があります。また部活動指導員（内部・外部）の現場での指導の観察をより増やし、指導員の指導力を含めた部活動の環境整備を行いたいと思います。

大磯中の卓球部員たちにとって、ふだんの練習とはまた違った内容が成長につながっているという

国府中ソフトテニス部の指導員は大学生の現役プレーヤー

試合に臨む国府中バレーボール部の様子

大磯中のバスケットボール部の生徒たちも真剣勝負の大会に挑んでいる

## 4 プラットホーム構想の実現に向けての展望

当クラブとしては、町と教育連携を行うにあたり大きな枠組みのなかで本事業（大磯式部活動）を捉え、当クラブと町の「スポーツ健康プラン」の一環としてスポーツ・文化・健康事業・教育関係の連携事業（大磯式部活動）を考えました。その背景には、町の「けんこうプラン大磯」があります。町の小学校・中学校と当クラブと関係する学校法人国際学園を中心とし、行政・地域・スポーツ団体・ボランティアの協力のもと、教育連携事業の基盤となるプラットホーム構想による町のスポーツ・健康に関するグランドデザインを作成しました。このグランドデザインの具現化が目標です。

また、部活動の地域連携・移行の課題として当クラブが考えていることは、部活動の指導現場への視察を増やすこととその改善です。生徒・部活動指導員（内部・外部）とコミュニケーションを果たし、学校管理職と教育委員会と意思の疎通を積極的に図って、大磯式部活動の質・量の改善を図りたいと思っています。

さらに、部活動指導員対象の指導者講習会の実施、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格取得の案内、スポーツ指導に関する情報の提供などを検討します。

財源については、スポンサーの獲得、ふるさと納税の活用、クラウドファンディングを活用する予定です。そして全国で成功しているクラブ事例との情報の共有と交流を行い、広報活動の充実を図りたいと思います。

一般社団法人星槎湘南大磯総合型スポークラブ 理事長　本木 幹雄

## クラブプロフィール

設立年月日　平成24(2012)年2月16日(平成24年10月11日 法人登記 )

所在地　神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2

運営　会員数:169名(令和6年4月現在)、予算規模77,912,000円(令和6年度)

特徴　[令和6年度運営目標]

- 地域の総合型スポーツクラブとして、普及・育成スポーツ・競技スポーツ・健康スポーツ/文化活動を通して、地域活性化をめざします。
- 各スクール事業、ジュニアユース事業の拡大を図り、地域スポーツの普及発展に貢献し、さらに関連する学校法人と連携しユース世代(高校年代)の育成につなげた一貫指導体制の充実を図ります。
- 女子サッカーにおいては、社会人チーム(現在なでしこリーグ２部所属)へつながる一貫指導体制を通じ、地域から応援されるチームづくりをめざします。
- 各カテゴリーの会員の獲得をより図り、健全なクラブ運営をめざします。
- 地元行政と各学校(小学校・中学校)と教育連携を図り、部活動の地域移行を踏まえスポーツを通じて「地域活性化」をめざします。
- 令和4(2022)年度から総合型地域スポーツクラブの登録制度がスタートしましたが、登録クラブとして認定されることでコンプライアンスを重視し、地域に信頼されるスポーツクラブをめざし、スポーツ・文化活動を通じて共生社会の実現を追求します。

連絡先　〒259-0111　住所:神奈川県中郡大磯町国府本郷1805-2
TEL:0463-74-5328　FAX:0463-26-6661
HP:https://sosc.jp
E-mail:s_suzuki@seisa.ac.jp 鈴木 / y_inoue@seisa.ed.jp 井上

クラブエンブレム

# 助成金情報

## ヨネックススポーツ振興財団2025年度助成金

[実施団体] 公益財団法人ヨネックススポーツ振興財団

ジュニアスポーツ振興助成事業（全スポーツ競技）

すべてのスポーツ競技において、ジュニアスポーツの振興に関する事業を積極的に行い、奨励し、または自ら行い、かつ当該団体としての活動を実施している団体を対象とします。また、中学校部活動の地域移行に関し、中学校等と連携を図り推進している団体を対象とします。

[申込期間]

後期対象期間：令和7（2025）年10月1日～令和8（2026）年3月31日の事業

申請開始：令和7（2025）年4月1日 10:00

一次締め切り：令和7（2025）年5月10日15:00

最終締め切り：令和7（2025）年6月10日15:00

審査結果通知：令和7（2025）年9月上旬（予定）

2023年度よりWeb申請に変更となりました。

締切日直前は申請システムへのアクセス集中が予想されますので、余裕をもって申請を行ってください。

https://www.yonexsports-f.or.jp/grant_application/

## 令和７年度子どもゆめ基金助成金<二次募集>

[実施団体] （独）国立青少年教育振興機構

子どもの健全な育成を図ることを目的に、令和7（2025）年10月1日以降に開始し、令和8（2026）年3月31日までの間に行われる子どもの各種体験活動や読書活動に対する助成を行います。

[申込期間]

電子申請システムを利用した申請のみ受付

／令和7年（2025）5月1日～6月17日（17:00まで）。

詳細は以下のページをご覧ください。

https://yumekikin.niye.go.jp/

# お知らせ

## R6年度実施各種セミナーのアーカイブ配信

令和6年度にJSPOが実施したセミナーのアーカイブ配信を行っています。
総合型クラブの活動現場やマネジメントに役立つ内容のセミナーとなりますので、ぜひご覧ください。

### ①男女共同参画セミナー

都道府県総合型クラブ連絡協議会や総合型クラブにおいて意思決定の場に男女が平等に参画することをめざし、多様な立場の人が参画する効果や、男女が平等に活躍するために必要な環境を考える機会となることを目的に「男女共同参画推進セミナー」を開催いたしました。
女性参画に積極的に取り組む団体や企業からの事例紹介のほか、意思決定の場で自身の考えを発信する力を育むためのスキルアップ研修などを掲載しております。

**■第1回セミナー**
**「男女が共に活躍できる社会を目指して」**
・開催日時：令和6年10月3日（木）
・アーカイブ配信URL➡https://youtu.be/N5tuLtCKs-s

**■第2回セミナー**
**「知っておきたい！より良いクラブ運営のための協力体制」**
・開催日時：令和6年12月11日（水）
・アーカイブ配信URL➡https://youtu.be/Krof5IdCCfQ

### ②総合型地域スポーツクラブのための法人格取得推進セミナー

法人格の種類や、適切な選択方法についてご講演いただいた内容を掲載しております。
総合型地域スポーツクラブの運営や、法人格に関する悩みをお持ちの皆さまに役立つ内容になっています。

・開催日時：令和6年10月30日（水）
・アーカイブ配信URL➡https://youtu.be/FRCknSuV0MM

### ③スポーツリスクマネジメントセミナー
### ～みんなが主役！社会の多様化と安全・安心なクラブマネジメント～

「部活動の地域クラブ活動移行に関連した活動の多様化」、「ダイバーシティ&インクルージョンといった社会の多様化のなかで総合型クラブに求められること」をテーマに講演を行いました。
総合型クラブの皆さまが活動する現場において活用できる内容となっています。

・開催日時：令和6年12月20日（金）
・アーカイブ配信URL➡https://youtu.be/yrb3Uwmmyqs

## 『部活動の地域連携・地域クラブ活動移行』地域クラブ事例紹介動画を公開！

この動画は、令和5年度に公開した【『部活動の地域連携・地域クラブ活動移行』取り組みのススメ】動画の続編として、学校部活動地域連携・地域クラブ活動移行に取り組むクラブがどのように課題を解決し、活動を進めてきたのか、先進的なクラブを取り上げて紹介しています。

地域クラブ活動移行を進めるうえでの課題は地域やクラブによってさまざまですが、この動画が少しでも課題解決のヒントとなれば幸いです。

※本動画は、公益財団法人スポーツ安全協会の助成を受け制作いたしました。

**①「財源確保」の課題解決に取り組むクラブ/NPO法人希楽々（新潟県）**

・動画URL➡https://youtu.be/mGks3M4TLxc

**②「指導者確保」の課題解決に取り組むクラブ/NPO法人白岡Sport-Verein（埼玉県）**

・動画URL➡https://youtu.be/cBRgK47tZJA

**▼【『部活動の地域連携・地域クラブ活動移行』取り組みのススメ】動画（令和5年度公開）はコチラから！**

https://youtu.be/nb67nWhM3cg?feature=shared

**▼スポーツ安全協会**

https://www.sportsanzen.org/

## アンチ・ドーピングについて

JSPOではスポーツの価値を守るための活動の一つとして、アンチ・ドーピング教育に取り組んでいます。施設で掲示して使えるような壁新聞をJSPOホームページで公開しています。PDFを無料でダウンロードできますのでご活用ください。

ドーピング検査の対象となる方だけではなく、スポーツに関わるすべての皆さまに「アンチ・ドーピング」を通してスポーツの価値を考えるきっかけにしてください。

**●スポーツの価値を守るための「アンチ・ドーピング」**

**●よくあるご質問はこちら「アンチ・ドーピングQ&A」**

**●選手が安心して使用できる医薬品リストはこちら**
**「アンチ・ドーピング使用可能薬リスト2025年版**

※毎年更新されますのでご注意ください